

# 賀川ハル 没後30年展

神戸市出身で、生活協同組合(生協)の生みの親でもある社会運動家、賀川豊彦(1888〜1960)の業績を伝える「賀川記念館」(神戸市中央区)で5日、豊彦の妻ハルに焦点を当てた特別展が開かれる。ハルの没後30年にあたる今年、同館が命日に合わせて企画した。同館は「豊彦を支え、女性の地位向上にも努めたハルという人物を多くの人に知ってもらいたい」としている。

命日の5日・中央区

## 夫・豊彦を支え 女性の地位向上に尽力

ハルは豊彦と同じ1888(明治21)年生まれ。23歳の時、女工として働いていた聖書印刷会社の神戸工場で、賛美歌指導に訪れた豊彦と知り合い、25歳で結婚。豊彦が活動の拠点とした神戸市のスラム街に住み込み、失業者の生活の面倒を見たり、行き倒れの人を介抱したりするなどの救貧活動に取り組んだという。

やがて豊彦が労働運動、農民運動、平和運動へと活動の場を広げ、全国各地を講演して回るようになる。ハルが豊彦に代わって現場を担当。その一方で、主婦や働く女性の地位向上を目指して、

## 映画や語り部の発表会

婦人会を組織したり、労働運動を自ら手がけたりした。

昭和期に入ってから、東京に転居。82年に94歳で亡くなるまで豊彦が残した数々の事業を引き継ぎ、生涯現役を通じた。

特別展では、こうしたハルの生涯を、豊彦の半生を描いた映画「死線を越えて 賀川豊彦物語」(1988年)や約100点の写真などで振り返る。また、豊彦の業績や理念を語りつなぐ同館の「語り部」17人による研究発表会もある。語り部の柳瀬啓子さん(74)は「人との出会い、置かれた環境によって人は成長していくということを、ハルを通じて伝えたい」と話す。

映画は午前10時、研究発表会は午後1時から。中学生以上300円。小学生以下100円。事前予約が必要で定員100人。問い合わせは賀川記念館(078・221・3627)へ。

(堀田浩一)



晩年の賀川ハル。東京都世田谷区の自宅で賀川記念館提供

# 神戸